

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 1 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200593		
法人名	森信建設 株式会社		
事業所名	グループホームなでしこ富士見町		
所在地	広島市中区富士見町15-23 (電話) 082-244-3599		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200593-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200593-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年1月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設の運営理念「ゆったり・のんびり・ほがらかに」を前提としてお一人おひとりのその日その日の体調や気分等を配慮しながら、毎日の日課として地域への散歩にでかけ、四季を肌・目・耳・身体全体で感じて頂き、メリハリのある生活を心がけています。また街中の施設の特性を活かして、大型スーパー等にも出かけるようにしています。  
特に大切な食事提供は、開設当初より「地産地消」を合言葉に、県内の新鮮野菜やお米を使用しています。野菜は産直市場で購入、お米は東広島市黒瀬の生産農家から玄米で直送され、その都度必要分を自家精米して提供しています。  
運営の母体が建設業ですので、施設内の細かい修理はもとより、在宅の管理なども将来的に視野に入れた終の棲家として安心安全な住まい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりの思いに寄り添いたいと考え、職員の都合を優先せず利用者本位のサービスを提供するよう取り組んでいる。利用者が退屈しないように近隣のスーパーへの買い物や日曜市など外出の機会を設けている。また、花見、敬老会、クリスマス会、月1回程度の外食には家族も参加し、家族と職員が協力して利用者を支援する体制が整っている。なお家族会が組織され、運営推進会議には役員が毎回参加し、家族会の要望で家族アンケートを実施するようになった。年1回の家族会総会には法人代表者も出席し、意見交換を行っている。利用者の食事を重視し、専門調理員が食事を提供し、日曜市などで購入した新鮮な野菜や添加物の少ない食材を使用している。事業所としては、利用者・家族の要望があれば看取りを行う方針である。今までに看取りの事例があり、看取りに関する研修も行っている。

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆったり、のんびり、ほがらかに」ということを運営の理念としています。朝夕の職員の引継ぎの場に掲示し、毎朝出席者で唱和し、確認しています。日常の運営に際しても理念を常に意識して介護業務を行っています。	法人理念「ゆったり、のんびり、ほがらかに」は、事業所内に掲示され、毎朝の申送りや職員会議で職員と共有している。理念の下に、各ユニットが年間目標を立て、年2回、実施状況を評価している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩では地域の方と挨拶や会話をすることで顔見知りになり、ホームの見学を希望される方はいつでも来て頂けるよう声かけをしております。地域や町内のお祭り・行事に積極的に参加させて頂いております。	毎日の散歩の際には、近隣住民と会話し、「とんど」「地蔵祭り」の町内会行事には利用者が参加し交流している。また、事業所主催の「納涼祭」には、利用者・家族、近隣住民や子供たちが参加し交流している。なお、定期的に母体法人が地域清掃を行い、地域に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1階そとだん館で、毎月「いきいきサロン」を開催しています。地域のふれあいの場をテーマとして転倒予防体操や健康・栄養のお話しなどもしています。又、地域や町内のお祭り・行事に積極的に参加して地域の一員として交流しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご入所様のご家族や町内役員の方、地域包括センターの職員等との意見交換や情報交換を行い、内外のご提案などをお聞きし、日々の運営に活かしています。また消防訓練は消防署員立ち会いの下に行い、認知症サポーターの講習会なども取り入れて地域との連携を意識した運営を心がけています。	運営推進会議には、家族会役員や家族が毎回、多数参加し、地域包括支援センター、地域住民、法人代表者も参加し活発な意見交換を行っている。事故発生状況を説明し、それに対する対策内容も後日報告している。参加者からの要望で、添加物が少ない食材を使用するようにした。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	隔月開催の運営推進会議には、国泰寺地域包括支援センター職員のほか、中区介護保険課の職員にも開催・出席を呼びかけ、ご都合に応じて参加を得ています。毎回、会議記録をFAX送信し、欠席時の協議内容を報告しており連携は取れていると思います。	運営推進会議の案内・議事録は毎回、区の介護保険課に提出している。年に1回程度、区の職員が運営推進会議に出席し意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、隔月開催の全体会議、日々の引継ぎ時などで、具体例を挙げて身体拘束とみられかねない行為などについて指摘、指導や確認など行っています。3点ベッド柵や拘束バンドは使用していません。また、ユニットの主玄関は日中施錠せず、季節によっては解放しています。	身体拘束に関する研修は、事業所内の年間職員研修として行い、勉強している。異食行為のある利用者に関して、行為を防止する為にミトンや拘束着の装着が検討され家族も同意したが、職員がいろいろと工夫し、身体拘束せず効果を上げている事例がある。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修には積極的に参加し、その場で学んだことは全体会議やフロアーミーティングの場で報告し、全職員が共有できるようにしています。また、入浴介助の際にはご入所者の身体に不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一般社団法人人生安心サポートセンターきらりの賛助会員となっており、成年後見人制度についての仕組みや役割などを管理者等は理解しています。ご家族からの相談時にはこのような組織があることなどを説明しています。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて、書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧に説明し、ご理解・ご納得をいただけるよう心がけています。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的にご入所様と接する中で細かい要望なども積極的に聞き出して、出来るところから応えるように心がけています。またご家族のご来所時には、我々への要望・思いや苦情等は、積極的に管理者にて機会を設けてお聞きするようにしています。また苦情処理機関の存在などリーフレットも置いています。	家族が来所された際には、意見・要望を聞いている。家族会が組織され敬老会と同時開催される家族会総会には、多数の家族が参加し法人代表者と意見交換し質疑応答を行っている。家族会の要望で年1回、アンケートを実施するようにした。それにより、カラオケ機やマッサージ機を設置した。	

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者はほぼ毎日、協議等行っており、不在時はメールにて24時間意見聴取できる体制をとっています。また、隔月の職員全体会議や随時リーダー会議、さらに必要時は個別での意見聴取の機会を作っています。	毎日の申し送りやフロア会議で職員の意見を聞いている。全体職員会議には、法人代表者も出席し職員の意見・要望に応じている。職員の意見により、クリスマス会や花見などの事業所行事では人手が少なく、該当日が休日の職員に休日手当を支給し職員を配置するようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、不在時を除き毎朝の引継ぎには出席し、就業環境の確認などを行っています。また、職員の処遇改善に向けては社労士の指導助言など受けて、常に前向きに実施する事を明示し心がけています。なお、年1回、個人面談を行うようになっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に外部の研修を案内し参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています。施設に帰する研修は施設が負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームや訪問介護サービス事業会社など、代表者や管理者の交流や研修派遣などを通じて、他の施設での参考事例を身につけ、報告書で社内回覧を行っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前面談ではご本人の生活の様子ADLを確認し、困りごとや要望などの聞き出しに時間をかけています。入所後の数日は帰宅願望など不穏状態が見られる事から職員が重点的な見守りを行い、ご本人の要望や相談事を聴く機会を積極的にとり安心感を醸成しています。		

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	事前面談ではご本人、ご家族やケアマネを含めてこれまでの生活の様子、ご家族の困りごとや要望等の聞き出しに時間をかけています。サービス利用開始後はご家族様も心配されるので、連絡を密にしてご本人様の様子をお話しし安心して頂ける様心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談ではご本人、ご家族やケアマネを含めてご希望などを聞き出します。入所後の数日は帰宅願望など不穏状態なので職員を重点的に見守りさせて、引き続き要望や相談事を聴く機会や時間を作るようにしています。フロアミーティングで今後の支援について協議を行います。時には緊急ミーティングも行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入所者の「新しい家族」という立場を認識し、新しい家で新しい家族としての信頼関係を築き、何事も共に寄り添いながら行い、日々を過ごすよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来訪した際には、ご本人の様子を使えたり相談したりしている。家族会を立ち上げて3年目になり行事など、ご家族から積極的に参加・協力・支援等していただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所者様の生活歴を把握し、意向・要望があれば、外部との手紙のやり取りや電話等も必要に応じて取り次いでいます。馴染みの美容院へ行きたい要望があれば、ご家族に相談しヘルパーさんと同行して貰い、関係が途切れないよう支援しています。	今まで利用していた美容院に行きたいとの要望は、家族に伝え家族に対応してもらっている。また、知人への手紙のやり取りに関しては、職員がハガキの購入や投函を行い、馴染みの関係が継続するように協力している。	

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入所時から性別、同じレベルの方、趣味や生活スタイルなどお話しが合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。又ユニットを越えてレクを行い、合同での相互関係を行っています。人間関係など考慮して部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなった方のご家族が訪問して下さったり、行事のボランティアで、お餅つきのお手伝い・舞踊などを披露して下さる事もあります。		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、表情・言葉・動作・しぐさで思いや意向の把握に努めています。家族会として要望事項等のアンケートを行い、その集計結果を日々の参考にしています。またご家族のご了解が必要な事項は連絡を取り、個別に対応しています。	家族に毎年記載してもらう「利用者の趣味や生活歴に関するアンケート」や日常の会話から把握した利用者の思い・意向は、職員間で共有している。利用者の要望で、「もっと運動したいのでスポーツジムに通う」、「月に1回、愛犬に会うために帰宅し家族と昼食を取る」がケアプランに取り入れられている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入所者ご本人の、現在・過去の思いや暮らし方等をお聞きし、我々で対応出来る事は積極的に取り組んでいます。ご家族から情報を得てケアに繋げ、アセスメントを行い、カンファレンスで検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面談では、これまでの住まいをお訪ねし日常のADLを確認するとともに、これまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。入所後は見守りや声掛けなどでご本人の要望等をお聞きし、出来る事を職員と一緒にし、有する力の維持に努めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人と家族の思いや要望を聴きながら、管理者・看護師・ケアマネジャー・リーダー・職員がチームとなり、現状に即したケアプランを作成している。</p>	<p>利用者毎の担当者はモニタリングを行いケアプランを作成し管理者に提出する。また、計画作成者は家族と面談し要望を把握し、計画作成者・担当者・看護師・管理者でケアカンファレンスを行いプランの見直しを行う。各利用者の短期目標一覧を所内に掲示し、職員が毎日の実施状況をチェックしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録・個人記録等は日勤・夜勤者が記入し、その他の職員は出勤時に記録を確認してから業務に入るようにしています。特記事項等は朝夕の申し送りで情報を共有しています。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族やご本人様を交え、その時の状況、状態に合わせて、他のサービス利用を行うようにしています。今後は建設部門との連携で、住まいの活用などの相談にも乗れるよう多機能化も視野に入れていきます。</p>	/	/
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内の行事に参加したり、毎日の散歩等で地域の方と顔見知りになり声をかけて頂くようになりました。グループホームに遊びに来てくださる方もおられます。</p>	/	/
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時、ご本人・ご家族の意向等をお聞きし、その希望をもとに受診・往診を協力し対応をしています。ホームのかかりつけ医として、内科・歯科(1/週)・皮膚科等の受診をお願いしています。看取りの時は夜を徹して立ち会っていただいております。</p>	<p>入居時に、利用者・家族の要望でかかりつけ医を決めているが、その際に事業所の協力医について説明し、現在では、入居者全員が協力医をかかりつけ医としている。協力医は定期的に往診し利用者の健康状況を把握し、看護師は24時間オンコール体制で利用者に対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は週三日の勤務ですが、それ以外も常に連絡が取れる体制となっており、休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常はかかりつけ医や受診医療機関等との連絡を担い、十分に相談しながら日常の健康医療の支援をしています。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、常に状態を把握し、できるだけ早期に退院・再入居できるように努めています。また医療行為が必要な場合は、他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所する時点で重度化への指針や緊急時の体制などについて入念にお話しさせていただいています。状態に変化があった場合には、かかりつけ医・看護師・管理者とご家族で今後の重篤時の対応などについて話し合いを行い、同意書等も頂いています。	事業所としては、利用者・家族の要望があれば看取りを行う方針である。入居時に「重度化した場合の対応」を説明し、重度化した際には、家族の意向を確認する。看取りを要望すれば家族同意書を提出して頂き、医師・看護師・計画作成者・管理者が協議し支援する。今年度は2例の看取り事例があった。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時などは、運営マニュアルに沿って連絡網で即時情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度当日の行動など関係者で振り返り、改善策についての意見交換と研修をしています。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	半年に一回消防避難訓練（日中・夜間を想定して）を行い、入所者の誘導、初期消火などを身につけています。又、ビル全体の防災訓練などにも参加し、運営推進会議で地域の方々と災害時の対応について話し合っています。	年2回、消防署立ち合いの下に利用者も参加し避難訓練を行い、それ以外に、毎月、事業所独自の避難訓練を行っている。独自訓練では、利用者も参加し避難誘導・介護度の高い利用者の避難方法を確認している。	

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入所者への日常の言葉遣い等は特に注意が必要で、全職員で接遇とマナーの勉強会を実施しています。必ずしも敬語の対応がふさわしくない場合など「家族の一員」という視点で最適な口調となるよう配慮しています。	利用者に対する言葉遣いに関しては、家族からも要望があり接遇研修を行った。なれなれしい言葉遣い、友だち口調や命令口調に関しては、管理者もその都度注意しているが、職員間で注意し合う環境を作って改善するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望や思いなどに素直に耳を傾け、また自己決定できるよう問いかけをしています。その中で出来る事は対応し、出来ない事は丁寧に説明しています。場合によっては管理者と話し合い、納得をえられるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	先ずはご入所者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望をお聞きして、最適な過ごし方が出来るように心がけています。当日入浴を希望されない方は翌日に回したり、食欲が無い場合や一斉での食事を希望されない時は、後で一人でも食べられるよう工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝ご本人の好みの洋服に着替えていただきます。化粧品もご本人、ご家族の希望があればつけて頂いています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来ていただき、ご本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望の際はご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	能力に応じて準備や片付けを職員と一緒にやります。時々ホットプレートを使用して一緒に作る事もあります。産直市の旬の食材を取り入れ、季節を感じて頂きながら、主食のお米は県内産の玄米を自社精米して、常に美味しく召し上がっていただけるよう提供しています。	専門調理員が、利用者の要望を反映した献立を作成し、食事を提供している。日曜日などで仕入れた新鮮な野菜や添加物が少ない食材を使用している。毎月の誕生会では、ちらしずしと刺身を提供し、毎月1回程度家族も一緒に回転すしなどの外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分等の摂取量は個別に記録し、常に推移を見ながら工夫と配慮をしています。また入所者の様子(好み・硬さ・味等)特記があれば献立表に職員が記入し、今後の食事作りに役立てるようにしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを全員行っています。その後の確認を職員が行い、週1回の歯科医院の往診時には入所者ひとり一人歯科衛生士による口腔ケア及び指導を受けています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>原則パット内に排泄ではなくトイレにて自立での排泄ができるよう支援しています。その為、テープ式のオムツは使用していません。排泄表にてひとり一人の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導しています。失敗した時は目につかない様に処理して、利用者の自尊心、羞恥心に配慮しています。</p>	<p>利用者の排泄状況を詳しく記録し、それにより利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を支援することで、テープ式のオムツを使用する利用者が皆無である。布パンツだけ、布パンツ・パットの併用者が利用者の半数で残りはリハビリパンツ利用者である。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>処方された便秘薬に頼ることなく極力自然排泄が進むよう寒天ゼリーを昼食時に、また飲み物に寒天粉を入れるなど工夫をしています。その人に合った適度な運動・散歩を毎日の日課に取り入れています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回(夏場は3回)の入浴を行っています。その日の体調・或いは入浴の拒否がある場合には無理をせず、ご本人の意思を尊重し、日をかえて入浴をしていただくよう対応しています。</p>	<p>週2回入浴するようにし、入浴を拒否する利用者には、入浴を強制せず時間を置いて入浴を促すようにしている。衛生に配慮し、利用者が入浴後はバスタブを清掃して湯を入れ替えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	天気の良い日には寝具類の天日 干しや風通しなどを行い、清潔 な安眠環境作りを心がけていま す。日中のレクや軽い運動・日 向ぼっこをする事で夜間しっかり 眠り、昼夜逆転をしないように 心がけています。処方による睡 眠導入剤の服用なども日々の状 況によって対応しています。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	ご入所者ごとの処方されている 服薬情報をまとめ、かかりつけ 医・看護師・職員が確認できる よう工夫配慮しています。決め られた時間・量・状態等を確認 し、服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	ひとり一人の好みや得意分野 など、日々の関わりの中から引 き出し、取り組みが可能なもの は検討し導入しています。家族 会によるアンケートも参考にし ています。固定的な役割分担な どは決めず、その日の気分・体 調に合わせて無理のないよう 家事の手伝い・散歩やボラン ティアによる催し物に参加して います。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。	ご入所者全員の希望に沿う事 は難しいのですが、天気の良 い日はほぼ毎日近隣の散歩を 実施しています。またおやつレ クとして近くのショッピング センターに行き、好きな物を 食べて頂いています。ご希望 により外部のディサービスへ の送り出しや、ご家族との外 出・外食ができるよう支援し ています。	天気が悪い日を除いてほぼ毎 日、散歩に出かけ、介護度が高 い利用者も出来るだけ散歩す るようにしている。利用者が 退屈しないように外出の機会 を多く設け、近隣のスーパー への買い物や食事、日曜市に 出かけている。花見や外食行 事には家族も参加し楽しんで いる。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	ご入所時に金銭管理の説明を ご家族を交えて行っています。 金銭管理規定に沿って金庫で の預かりと支出記録を行い、 毎月の請求時等にはその報告 を行っています。 ご希望により現金が必要な 時には、職員立会いで買い物 や飲食などをして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目( 3階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては入所時にご家族と話し合いを行っています。必要であれば携帯電話を所持されています。手紙の受発信は原則自由ですが、ご家族のご意向に沿った相手先に限定しています。事前に開封などは行っていません。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は掃除の仕方をマニュアルで定め、清潔で明るい空間となるように務めています。バルコニーで季節の草花を育てたり、リビングに飾ったりして季節感を出しています。またご入所者と一緒に作業を行う事で生活感覚を取り戻していただいています。	事業所の清掃マニュアルに従って、毎日、担当職員が掃除を行い、トイレ・浴室・リビングを清潔に保つように取り組んでいる。ベランダに花を植え、天候が良い時期にはベランダのベンチに座りお茶を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファ、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、ご入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前にご家族やご本人に居室を見学していただき、それまでの日々の生活状況と違和感の無いように、使い慣れた家具・椅子・テレビなど持込んでもらったりしています。	入居前に居室を見学して、今までの生活に似合った環境となるように慣れ親しんだ筆筒やロッキングチェアなどを持ち込んで頂いている。家族写真や仏壇なども持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは段差を残しています。これは下肢筋力低下予防にも役立っています。		

V アウトカム項目( 3階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホームなでしこ富士見町

作成日 平成30年1月20日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	職員の言動で利用者の方が不快な思いをする事がある。	利用者の方個人個人のペースを尊重し、自尊心を傷つけないように接する。	命令口調にならず否定的な言葉を使用しないよう職員同士が注意し合える関係性を作る。	1年
2	25	利用者の方の残存機能を生かした援助が出来ていない。	・出来る事を職員の場合でやらない。 ・出来ないだろうと決めつけない。	利用者の方が出来そうな事はして頂くように声掛けする。 業務優先にならない。	1年
3	13	外部の研修の参加を促すが職員人数の関係上シフトの調整が難しい。	毎月1回の外部の研修に参加する。	研修の予定を早めに知り各フロアリーダーと協議しシフトに組み込む。	1年
4	27	介護記録・個人記録の書き方。	日々の様子やケアの実践・気づきや工夫した事。利用者の方の言葉が記録に残る様な書き方をする。	介護記録・個人記録の重要性を認識する。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。